

# 令和4年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和4年3月17日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並か少ない	平年並か多い

○4月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)  トラップの誘殺虫数が平年より多いため
(温かみかん)	① かいよう病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② そうか病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	③ ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
(タカシカシ)	① かいよう病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	② ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
マンゴー	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(施設)	① 斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ タバココナジラミ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
（ピー 施 設 マ ン）	① ミナミキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（ト 施 設 ト）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
さ （や 平 張 ん げ ん）	① タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さと う き び	ツマジロクサヨトウ	3月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
キャ ベ ツ	モンシロチョウ（アオムシ）	・全調査ほ場において卵が複数観察された。 ・幼虫が葉を食害するため葉に大きな穴があき、多発すると葉脈を残して葉が食い尽くされるので、見つけ次第捕殺し、登録農薬による防除を行う。
レ タ ス	べと病	・調査5ほ場中、4ほ場で発生。 ・莖葉に発生し、地際の外葉の表面に、淡黄色の病斑を生じ、拡大して葉脈に区切られた多角形で黄色の病斑となる。病斑の裏面には、白色で粉状のかびを生じる。生育期全般で見られるが、結球期以降に発病することが多い。防除対策としては発病株等は見つけ次第処分する。罹病株をほ場内に残さない。登録農薬による防除を行う。

# 令和4年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和4年3月17日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並か少ない	平年並が多い

○4月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ、 イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)
マンゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
（施設ヤ）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	④ タバココナジラミ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

# 令和4年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和4年3月17日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
ほぼ平年並	平年並か少ない	平年並か多い

○4月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
水稲	① スクミリンゴガイ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ、 イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
施設野菜	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② 斑点病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	キクイムシ類	衰弱した枝、幹などから食入し、被害が進むと枯死させる。葉が黄化落葉したり、枝などから線香状の木くず(フラス)が見られたら、侵入部位まで枝を除去し、速やかに施設外に持ち出し処分する。また樹勢が低下することで本虫の加害を受けやすくなるので、樹勢維持に努める。

向こう1か月の天候の見通し  
 沖縄地方（3月19日～4月18日）

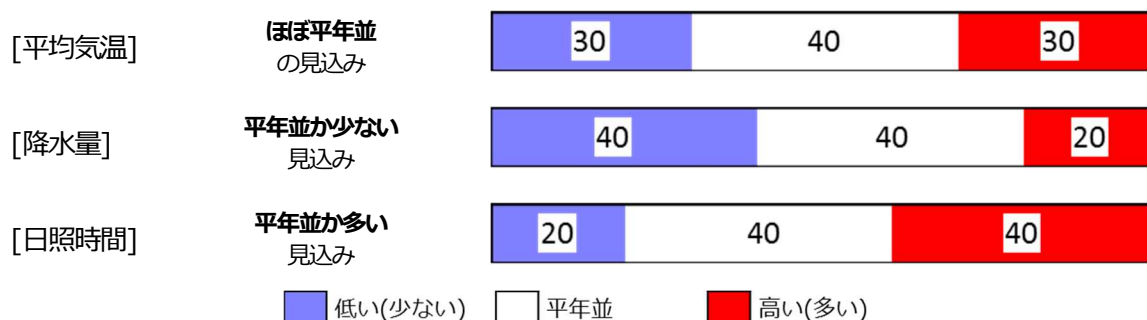
○ 気象予報のポイント

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

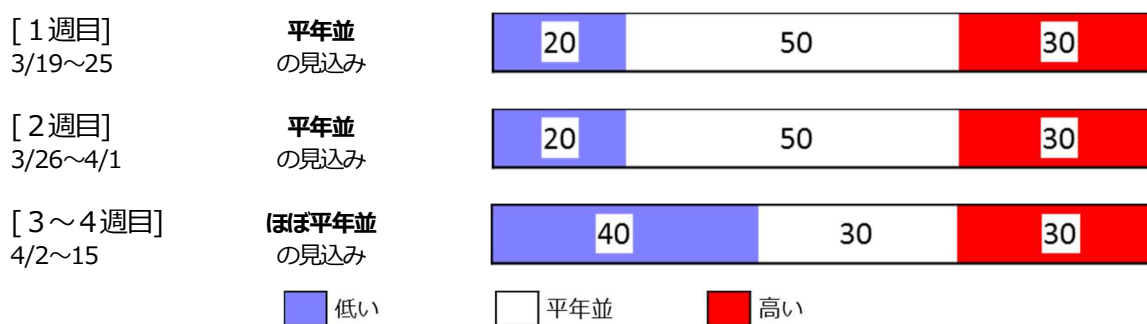


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.1～+0.2℃	平年比：79～112%	平年比：90～105%
那覇	20.1～20.7℃	92.7～172.1mm	100.5～117.3時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.4～+0.8℃	平年差：-0.7～+0.7℃	平年差：-0.4～+0.4℃
那覇	19.2～20.3℃	19.3～20.7℃	20.5～21.3℃

※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇、名護、久米島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島の7地点平均値です。

※ 平年並の範囲は、過去30年間（1991～2020年）の値から統計的に求めています。